

第14回会員報告会・講演会・意見交換会

《第14回会員報告会》

- ・開催日：2024年12月11日（水）
- ・開催場所：鉄鋼会館 8F
- ・会務報告
 - 1) 事務局報告
 - 2) 各委員会報告
運営委員会、技術委員会、業務委員会



【中河代表理事による開会ご挨拶】



【会員報告会の全景】

《講演会》

- ・テーマ：「水道分野の維持管理と官民連携のこれからの期待すること」
 - ・講師：（一社）日本水道運営管理協会 会長 飯嶋 宣雄氏
- ※講演会からの司会は2024ミス日本「水の天使」の安井南様



【講師の飯嶋会長】



【飯嶋会長による講演会は水管協で初めて】



【司会進行は 2024 ミス日本「水の天使」】



【約 50 名が会場で聴講した】

《意見交換会》

講演会後にご来賓をご招待して意見交換会を開催。

水管協会長の飯嶋宣雄氏の開会挨拶、国土交通省 水管理・国土保全局の筒井水道事業課長によるご来賓挨拶、公益財団法人水道技術研究センター 清塚常務理事の乾杯のご発声で和やかにスタート。ご来賓、水管協会員合わせて 60 名が参加し、活発に意見交換を行った。



【飯嶋会長の開会挨拶】



【国土省筒井水道事業課長】



【2024「水の天使」安井南氏】



【ご来賓の JWRC 清塚常務理事の乾杯のご発声により意見交換会がスタート】



※写真の出典は日本水道新聞社様、水道産業新聞社様、ミス日本協会様にご協力いただきました。

多摩地区水道の一元化を紹介

水管協 会員報告会・講演会を開催

日本水道運営管理協会(飯嶋宣雄・会長)は11日、第14回会員報告会を開催した。国土交通省、日本水道協会の意見交換、災害支援金の贈呈、他団体活動への参加など



高井課長



飯嶋会長



中河代表理事

の協会活動や、今年度の受託実態調査の報告がなされた。災害支援金の贈呈については、1月の能登半島地震による被害、9月の能登地方豪雨による被害に対して、日本協中部地方支部にそれぞれ20万円贈呈した。報告会後の講演会では、「水道分野の維持管理と官民連携のこれからに期待すること」と題して飯嶋会長が講演した。

冒頭、あいさつに立った代表理事の中河浩一・クボタ環境エンジニアリング社長は「官民連携の動き、物価高騰や人材確保など課題が積み重なっていく中、ウォーターPPPへの期待も高まっている。先日行われた国交省と水管協との意見交換では水道分野におけるウォーターPPPについて別途意見交換の場を設けたいとの話を聞いた。会員各社からのご意見、ご提案を集約し、積極的に情報を発信していきたいと述べた。

講演の冒頭、飯嶋会長は「維持管理を引き受けるという意味では民間がコンセプションを行うときと同じ構図になるので、参考になるのでは」と述べ、東京都における多摩地区水道の統合一元化と事務委託解消を中心として紹介した。運転管理を集中監視できるように整備した集中化工事、市町への事務委託解消の手順、管理団体の一体的運営体制などについて説明した。

飯嶋会長は「事業体からの民間委託は緩やかに進み、その形態、スピードは首長次第。広域化は当該自治体の合意に時間を要するが決まれば着実に進む。施設の広域化には時間がかかり、行政指

業界として人材確保を

日本水道運営管理協会 青木理事長らと意見交換

日本水道運営管理協会はこのほど、日本水道協会との意見交換を実施した。飯嶋会長、中河代表理事、伊藤道夫・副代表理事(月島ジェイテクノメンテサービス社長)、野村晋亮・事務局長(クボタ環境エンジニアリング)が出席した。青木理事長らと意見交換する水管協一行(右側)

青木理事長は「実態を継続してリサーチして対応していきたい」などと述べ、また、業界として人材をいかに確保するかが課題だと、「賃金が低いと優秀な人材は集まらない。国民一人ひとりに、蛇口の奥の」



青木理事長らと意見交換する水管協一行(右側)

とめた。最後に「水道事業に携わる者は官民間問わず水道を愛してほしい」と思いを込めた。

その後、来賓などを招いて行われた意見交換会で飯嶋会長は「協会として

導と国庫補助が期待される」と強調。また、「事業の運営には事業体職員とその退職者の活用が有効。人材確保のために職員の給与体系は魅力あるものにしてほしい」とも述べた。最後に「水道事業に携わる者は官民間問わず水道を愛してほしい」と思いを込めた。

その後、来賓などを招いて行われた意見交換会で飯嶋会長は「協会として

ては今のところ業務は伸び悩んでいるが、国交省のウォーターPPPに乗っかりながら頑張っていきたい」とあいさつ。来賓の高井課長・国交省水道事業課長は「将来的に人口が減っていく中で官民のそれぞれの良さをうまく使いながら、水道を将来にわたって持続的にやっていくためにお力添えを」と語った。

いにより、同規模の業務の受託で比較して下水道より低くなる。

青木理事長は「実態を継続してリサーチして対応していきたい」などと述べ、また、業界として人材をいかに確保するかが課題だと、「賃金が低いと優秀な人材は集まらない。国民一人ひとりに、蛇口の奥の」

官民連携に理解を

水管協

飯嶋会長が講演

日本水道連管管理協会は11日、第14回会員報告会とともに講演会を開き、飯嶋宣雄会長が「水道分野の維持管理と官民連携のこれからに期待すること」と題して講演した。

飯嶋会長は冒頭、官民連携に関する国の動きを解説。続いて、協会員が全国の水道事業体から受託する業務状況について触れ、業務委託契約が大



中河代表理事



飯嶋会長

半を占め、民間の創意工夫が発揮しやすい包括契約が少ないと指摘。契約年数は拡大傾向にあるが、さらなる長期契約化



委託の長期化等に期待

が必要であるとした。人材確保には給与の向上や退職者等の人材活用が有効であるとし、「水道事業に携わる者は官民を問わず水道を愛してほしい」と願いを込めた。

会員報告会では、事務局と各委員会が最近の活動状況を紹介。国土交通省・日本水道協会との意見交換会では、飯嶋会長、中河浩一代表理事が会員企業の直面する課題を説明したほか、DX技術の活用・推進やウォーターPPPへの対応についても意見交換したという。また、地震や豪雨で被災した日水協の中部地方支部に支援金を送った。この取組みは2018年に始めたもの。累計支援額は500万円に及ぶ。

委員会からは、オンラインド配信した水道施設管理技士（浄水・管路）受験講習会の受講者が増加したことや11月に開いた技術見学会の様子などが報告された。

冒頭であいさつした中河代表理事は参加者に感謝を示しつつ、講演会等を通じて、官民連携への理解を深めてほしいと呼びかけた。

講演会と意見交換会の司会は2024ミス日本「水の天使」の安井南さんが務めた。